

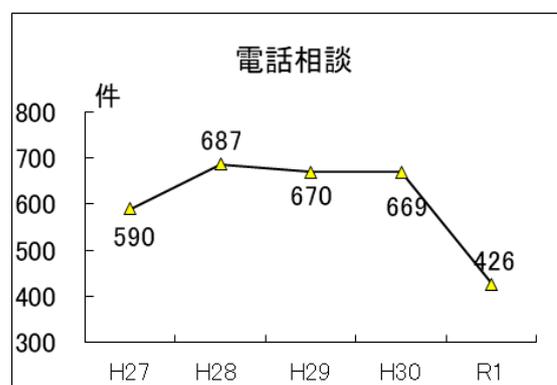
第2 地域福祉

1 住民主体の相談活動

番号	事業名	財源			
		自主 会歳基	補助	委託	事業
(1)	電話相談				

結果の概要

- 電話の匿名性により、こころの悩みや生活不安の訴えなどを傾聴し、問題解決に向けて相談者に寄り添う形で対応した。
- 相談員会議を毎月1回開催し、情報共有及び対応方法の検討を行った。



実績等

<事業実績>

相談日	月～金曜日（午後1時～4時）
相談方法	相談専用ダイヤルによる電話受付
相談員	1人で担当（8人の交代制）
相談日数	237日（3月末の3日間は新型コロナウイルス流行により中止）
相談件数	426件
相談員会議	11回（1回は新型コロナウイルス流行により中止）

<相談内容>

内容	件数	内容	件数	内容	件数	内容	件数	内容	件数
生計	6	年金	0	職業、生業	22	住宅	0	家族	30
結婚	10	離婚	10	健康、衛生	21	医療	3	精神保健	350
人権、法律	2	財産	0	事故	1	児童福祉	0	母子保健	0
教育、青少年			0	母子、父子福祉	0	高齢者福祉	9	苦情	3
心身障害児（者）福祉			3	ボランティア	0	その他	321		

※相談内容は、一回の相談で複数の相談内容がある場合があるため、一部重複あり。

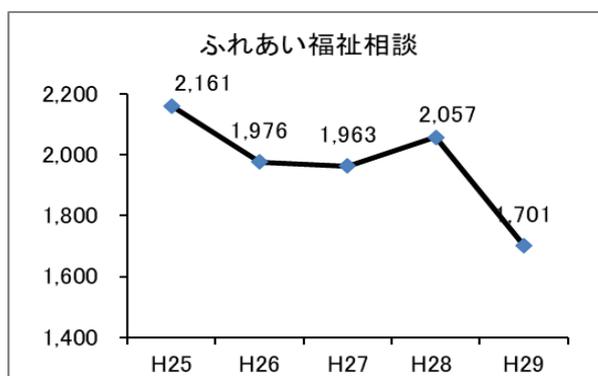
分析・課題

- 全相談件数が昨年度から240件程減っている。これは一か月当たり10件以上電話をしていた何人かの継続相談者の相談が減少したりほぼなくなったためと考えられる。
- 継続相談者が全体の8割（347件）だった。昨年度より、新規相談の割合が伸びており、単発の相談で終わることが多い。
- 新規相談（79件）は「家族」、「健康、衛生」、「職業・生業」の相談が多かった。関連機関を紹介するが、傾聴を深めると、背景に課題を抱えていると思われる様子があり、慎重な対応も求められた。

番号	事業名	財源			
		自主 会歳基	補助	委託	事業
(2)	ふれあい福祉相談				

結果の概要

- 地域の身近な居場所として、年間(延べ)188回開所した。
- 日常の何気ないおしゃべりを通じ、相談者の潜在的なニーズへの働きかけ、支援に繋ぐことを目的に市内5か所の地域福祉センターで実施した。
- 年間6回(内1回は中止)の相談員会議、年間2回の相談員研修を実施し、様々な来場者に寄り添った対応するための方法を検討した。
- 地域包括支援センターや地域福祉コーディネーター
一、地域支え合い推進員、ひだまりサロンといった社会資源の紹介なども行った。



実績等

○利用者数と内訳

名称	相談場所	相談日	相談員	実績		
富士見 ふれあい福祉相談	市民活動支援センター 富士見コーナー	水曜日(祝祭日を除く) 午前10～午後3時	各コーナー 1人担当 7人交代制 (欠員1名)	年29回実施		
染地 ふれあい福祉相談	市民活動支援センター 染地コーナー			年45回実施		
緑ヶ丘 ふれあい福祉相談	市民活動支援センター 緑ヶ丘コーナー			年44回実施		
菊野台 ふれあい福祉相談	市民活動支援センター 菊野台コーナー			年43回実施		
西部 ふれあい福祉相談	市民活動支援センター 西部コーナー	月曜日 (祝祭日、第4を除く) 午前10時～午後3時		年27回実施		
	富士見ふれあい福祉相談	染地ふれあい福祉相談	緑ヶ丘ふれあい福祉相談	菊野台ふれあい福祉相談	西部ふれあい福祉相談	合計 188回
相談	0件	2件	3件	0件	2件	① 7件
話し相手	464件	560件	181件	211件	278件	② 1,694件
血圧	437件	464件	165件	176件	251件	1,493件
① + ② = 1,701件						

分析・課題

- 7人の相談員が交代制で5地域を回るため、ゆるやかな関係性の中で気軽に話しができる。生活の中での『困りごと』や『悩みごと』といった日常の何気ないおしゃべりに近い話しやすい環境を作り、聞き取るように努めている。

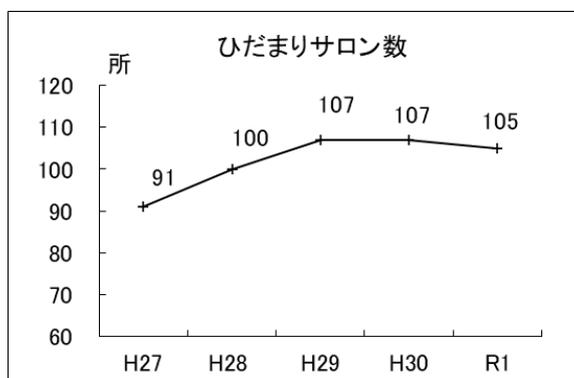
- 「専門機関への相談を行って良いか」、「どのように相談したら良いか」といった専門機関への相談方法や相談初期の動き方といった相談が多いように感じである。
- 令和元年度より、子育て世代の利用者確保に向けた働きかけを行っているが、目に見える効果が得られなかった。次年度はホームページなど電子媒体を積極的に利用したい。
- 相談員の退任も見据えて、新たな人材確保に向けた仕組みの必要性を感じており、そのための方策を検討したい。

2 住民主体の交流活動

番号	事業名	財源			
		自主 会歳基	補助 市総	委託	事業
(1)	ひだまりサロン事業				

結果の概要

- 4か所が新規立ち上げ。5か所が解散。2つのサロンが1つに統合。
- 約870人がサロンスタッフとして活動に参画した。
- 地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーター及びボランティアコーディネーターと連携を取りながら、立ち上げや活動の継続支援を行った。
- 昨年度同様、交流会を福祉圏域に合わせて7ヶ所で実施（1ヶ所は新型コロナウイルスの影響で中止）。



- 立ち上げ当時の思いを振り返り、今後の活動について考えることを目的として取り組んだ。
- 地域包括支援センターとは日頃から連携し、地域別交流会に参加をいただいた。
- 各サロンのネットワークづくりと情報共有、社協のPRを兼ねて「ひだまりサロン便り」を年2回発行。また、ひだまりサロンをより多くの方に周知するためリーフレットの内容を見直し、新たに作成。
- 助成金の財源である会費及び歳末たすけあい募金額が減少していく中で、今後の事業継続や拡大に対応するため、助成金額の見直しを行った。活動費は減額、会場使用料については、会場確保を第一とするためサロンからの持ち出しがないように上限を増額し、令和2年度から変更する。各サロンが今後、助成金のみで活動するのではなく、自分たちで工夫して活動していけるように支援していきたい。

実績等

- 各グループ活動内容一覧（年度内に解散したサロンを含む）

	サロン名	活動場所	詳細
1	染地かいわい	染地地域福祉センター	第2月曜日 11回開催 食事、歌、体操
2	サンルーム西華	西部地域福祉センター	第2月曜日 10回開催 お茶、おしゃべり
3	緑ヶ丘おしゃべりサロン	緑ヶ丘地域福祉センター	第2火曜日（奇数月）5回開催 食事、歌、折紙、お手玉、ピアノ、フルーツ、琴など演奏会

第1部 第2地域福祉

4	国領ひだまり	調布市市民プラザあくろす	第2・第4金曜日 17回開催 食事
5	ゆたかサロン	ライオンズマンション染地管理棟	第1・第3火曜日 23回開催 味噌汁、コーヒーなど
6	ひだまりサロン多摩川苑	カフェ大好き	第2火曜日 9回開催 食事、音楽、相談
7	多摩住口号棟ひだまり	多摩住口号棟集会室	第3金曜日 10回開催 食事、歌、相談
8	ひだまり入間	入間地域福祉センター	第3火曜日 10回開催 食事、歌、体操、ぼけない君ビー玉
9	そよ風サロン	個人宅、調布住宅	第1金曜日・第4木曜日 21回開催 歌、体操、読書、学習会、ミニ音楽コンサート
10	木曜クラブ	多摩川住宅ハ10号棟集会室	第3木曜日 12回開催 食事、歌、体操、手芸、相談
11	トラジ会	西東京南部同胞生活相談総合センター	第2木曜日ほか 14回開催 食事、歌、体操、軽スポーツ、相談
12	ひだまり菊野台	個人宅	第4木曜日 10回開催 食事、歌、体操、ヨガ、相談
13	ふれあいランチ	シルバーピア調布染地	第1・第4木曜日 18回開催 食事、歌
14	サロン・タマリバー	多摩川住宅ホ4号棟集会室	第1月曜日・第3火曜日 23回開催 歌、体操、手芸、書道、折紙
15	若葉三丁目ひだまり	個人宅	第1・第3火曜日 22回開催 食事、歌、体操、読書会
16	きさらぎサロン	布田老人憩いの家	第2水曜日 11回開催 パッチワーク
17	サロンいこい	布田老人憩いの家	第2金曜日 10回開催 絵手紙
18	からむしの里	布田老人憩いの家	第3水曜日 10回開催 歌、ギター伴奏
19	ひだまりぶちぽあん	ぶちぽあん	第2土曜日 9回開催 食事、歌、古文の群読
20	なかよしサロン	小島町ふれあいの家	第3月曜日 12回開催 食事、歌、体操
21	コスモス会	都営八雲台自治会館	第3日曜日 11回開催 おしゃべり、外出
22	緑ヶ丘一丁目自治会グリーンサロン1	緑ヶ丘小学校ふれあい給食室	第2・第4木曜日 16回開催 語らう会
23	アゼリアお茶の会	マンションアゼリア	第2・第4火曜日 22回開催 参加者同士の会話、花見

24	農園サロンののはな	西つつじヶ丘の畑	毎週火曜日 47 回開催 園芸
25	飛田給ひだまり	西部ふれあいの家	第2木曜日 11 回開催 歌、健康体操
26	サロンあざみ	シルバーピア調布染地	第4月曜日 8 回開催 新聞等の切り抜きを参考に話し合う
27	八雲睦会	都営八雲自治会館	第2・第4日曜日 23 回開催 食事
28	農園サロンぴーまん	西つつじヶ丘の畑	毎週木曜日ほか 78 回開催 園芸
29	調布ケアラーの会クローバー	調布市市民プラザあくろす	第3木曜日 14 回開催 家族介護者の集いの場
30	緑ヶ丘健康麻雀サロン	緑ヶ丘地域福祉センター	毎週木曜日 51 回開催 麻雀
31	緑ヶ丘一丁目自治会グリーンサロン2	緑ヶ丘小学校ふれあい給食室	第1・第3木曜日 20 回開催 歌
32	お茶のみクラブ	緑ヶ丘地域福祉センター	第1・第3月曜日 20 回開催 食事、歌、軽体操、手芸
33	野川芝桜の会	野川河川敷	第2火曜日・第4日曜日 21 回開催 芝桜の手入れ、野川清掃
34	やよい会	下石原地域福祉センター	第2・第4木曜日 24 回開催 演歌・歌謡曲を歌う
35	緑ヶ丘2丁目あきらさん家	個人宅	第2・第4月曜日 22 回開催 歌、体操、脳トレ
36	金曜サロン	深大寺東町市営住宅集会室	第2金曜日 10 回開催 ハンドベル、大正琴・カナリア演奏、落語、朗読、歌、ゲーム、体操
37	アズランカ	個人宅	第2・第4火曜日 21 回開催 子育て、手芸、ワークショップ
38	つどい場カフェ	個人宅	第3月曜日 11 回開催 介護について話合う
39	ひまわり	ネオコーポ調布多摩川集会室	第2水曜日ほか 30 回開催 食事、歌、体操、料理
40	童謡を歌う会シンガーズ・グリーン	緑ヶ丘地域福祉センター	第2土曜日ほか 11 回開催 歌、体操、楽器演奏を聴く、施設訪問
41	上布田大好きOG/OB会	上布田自治会館	第1・第3月曜日ほか 35 回開催 食事、相談、ものづくり、街中の話題
42	染地ふれあいサロン	染地ふれあいの家	第3水曜日ほか 14 回開催 歌、体操、フラダンス、手芸、出前講座

43	サロン木洩れ陽	こころの健康支援センター別館	第2金曜日・第4月曜日 19回開催
			食事
44	の～んびり茶の間	多摩川住宅口7号棟 A・B・C集会室	第2木曜日・第4日曜日 19回開催
			食事、歌、体操
45	手話でひだまり in 富士見	富士見地域福祉センター	第4土曜日 11回開催
			手話の勉強会
46	自主トレたんぽぽ	富士見地域福祉センター	毎週木曜日 37回開催
			体操
47	なかま  町づくり	深大寺東第一自治集 会場	毎週水曜日、第3金曜日ほか 63回開催
			食事、歌、手芸
48	金子ひだまり	国領3丁目第2アパ ート集会所	毎週水曜日 51回開催
			食事、輪投げ
49	テラコヤ3	金子地域福祉センタ ー	第3金曜日 11回開催
			子育て、イベント
50	くすのき絆サロン	くすのきアパート集 会室	第1・第3月曜日 22回開催
			水彩画、写生、ぬり絵、健康体操
51	メイプルカフェ	メドウィン調布	第2・第4水曜日 22回開催
			介護について話合う
52	多摩川太陽グループ	下石原地域福祉セン ター	第2木曜日 9回開催
			絵手紙、粘土、編物、出前講座、押し花ア ート、食事、体操、軽スポーツ
53	花カフェ	ちょうふ花園	毎週水・金曜日 86回開催
			コーヒー、紅茶、焼き立てパン提供
54	みかん健康体操	ときわぎ国領	第1～第3月曜日 33回開催
			歌、体操
55	ポーノ・ポーノ	個人宅 たづくり	第3・第4火曜日・第3日曜日 19回開催
			食事、体操、手芸
56	くすのき健康麻雀サ ロン	くすのきアパート集 会室	毎週木曜日、第1・第3土曜日 67回開催
			麻雀
57	若葉カフェ	至誠ホーム調布若葉 ケアセンター	第3水曜日 15回開催
			歌、手芸、勉強会、アトラクション、お抹茶
58	ピンポンサロン	調布市青少年交流館	毎週火曜日 47回開催
			卓球
59	ゆずり葉の会	個人宅	第1・第3月曜日 23回開催
			食事、編物、散歩
60	なごみ深大寺	深大寺地域福祉セン ター	第4金曜日 10回開催
			ハーモニカ伴奏、折紙
61	なんてったってクラ シック	染地地域福祉センタ ー	第3水曜日 12回開催
			クラシック鑑賞

62	わかくさサロン	都営八雲自治会館	第3土曜日 9回開催 食事、歌、手芸、輪投げ、頭の体操
63	ふじみ手芸とおしゃべりサロン	富士見地域福祉センター	第2・第4水曜日 14回開催 前掛け、雑巾袋、カバーなどの作製
64	うたごえ喫茶 in 富士見	富士見地域福祉センター	第3土曜日 7回開催 ピアノ生演奏、歌
65	オアシス深大寺	個人宅	第1月曜日 9回開催 食事、手芸、情報交換、出前講座、脳トレ
66	テラ多摩川サロン	フィットネス&カルチャースタジオ Terra	第1・第3火曜日 22回開催 体操
67	サン歩会	個人宅	第1木曜日 11回開催 体操、園芸、軽スポーツ、散歩
68	西部輪なげサロン	西部ふれあいの家	第4木曜日 11回開催 輪なげ
69	おひさまカフェ	個人宅	第1金曜日 12回開催 食事、相談、出前講座
70	くすのきひだまり	くすのきアパート集会室	第2・第4月曜日 22回開催 カラオケ、合唱
71	早朝体操会	市役所前庭 メドウィン調布	(体操)日～金 (その他)月2回 24回開催 体操、食事、ハイク、見学
72	りはびり麻雀の会	染地地域福祉センター	毎週火曜日 51回開催 麻雀
73	ひだまりサロンY・Y	パークハウスザガーデン	第2月曜日ほか 11回開催 歌、朗読
74	AMK ふれあいネットワーク	朝日マンション国領の諸施設	活動項目により様々(毎週～1回/年) 活動項目により様々
75	杜と光のサロン	アトラス調布	第3木曜日 11回開催 折紙、ぬり絵、ミニブーケ作り
76	エンジョイピンポン	富士見地域福祉センター	第2・第4土曜日 27回開催 卓球
77	山野園芸サロン	神代の杜、農園など	第1・第3火曜日、第2・第4土曜日 82回開催 園芸、特養の清掃、入所者との交流
78	ほっとカフェ談	西部地域福祉センター	第3金曜日、第5週目のいずれか 19回開催 食事、体操、相談、朗読
79	談楽バードカフェ	富士見地域福祉センター	第4火曜日 11回開催 川柳、将棋、麻雀
80	ひだまりテニス	市民多摩川テニスコート	第2・第4火曜日 23回開催 テニス

81	寿会	緑ヶ丘地域福祉センター	第2金曜日 12回開催 歌、カラオケ
82	遊ぼっちゃ	国領小学校体育館	第2木曜日 11回開催 ボッチャ
83	第3木曜日の会	上石原ふれあいの家	第3木曜日 10回開催 折紙、ゲーム、朗読、花壇手入れ
84	友悠麻雀初心者クラブ	緑ヶ丘地域福祉センター	第1・第3火曜日、第2月曜日、第4金曜日 43回開催 麻雀
85	ズッキーニ	布田老人憩の家茶屋	第1・第3月曜日 16回開催 歌、体操、ウクレレ、ペン習字
86	いきいき会	小島町ふれあいの家	第2・第4火曜日 22回開催 食事、江戸川柳
87	手話ダンスすずらんサロン	緑ヶ丘地域福祉センター	第1木曜日・第3水曜日 23回開催 手話ダンス
88	ひだまりあみもの	ライフタウン国領	第1・第3金曜日 21回開催 あみもの
89	Cocoオアシス	調布こころの健康支援センター	第1・第3土曜日 15回開催 食事、ゲーム
90	調布ヶ丘ひだまりサロン	調布ヶ丘地域福祉センター	第2・第4金曜日 24回開催 囲碁
91	みんなよってっ亭	くすのきアパート集会室及び前	第2・第4火曜日 20回開催 歌
92	ハッピーマニア	菊野台地域福祉センター	第3日曜日 12回開催 子育て、軽スポーツ
93	ひまわりテニス日曜日クラブ	神代中学校テニスコート	第1・第3日曜日 22回開催 テニス、食事
94	サロンハイム	つつじヶ丘ハイム集会室	第2日曜日 11回開催 歌、体操、イベント
95	まちかどサロン	個人宅	第3火曜日 12回開催 食事、歌、体操、朗読、紙芝居
96	飛田給ひまわりの会	西部公民館	月2回(曜日不定期) 20回開催 歌、体操、折紙、工作、勉強会
97	メリーゴーランド	調布市市民プラザあくろす、たづくり	第2火曜日・第4木曜日 21回開催 食事、体操、脳トレ、軽スポーツ、手芸、相談、外国人との交流歓談
98	もりもりサロン	ポコポコホッピング、 覚證寺	毎週金曜日 41回開催 手作りランチ
99	三火会	野ヶ谷ふれあいの家	第3火曜日 11回開催 歌、体操
100	みんなの体操サロン	西部地域福祉センター	第4木曜日 10回開催 体操

101	子育てランチうさくらんち	個人宅	第2火曜日・第3水曜日 22回開催 食事、子育て、相談
102	うたごえサロン金子の里	国領3丁目第2アパート集会所	第4火曜日 10回開催 歌、体操、ゲーム、折紙
103	2・4火曜会	深大寺こもれび	第2・第4火曜日 21回 体操
104	けやきぶんこ	西部地域福祉センター	第2金曜日 10回 絵本、子育て
105	上石原ひだまり	上石原ふれあいの家	第1～3火曜日 29回 体操、歌
106	めだかの学校	八雲台ふれあいの家	第1・第3火曜日 22回開催 10筋体操、口腔体操、脳トレ、茶話会
107	たんぽぽサロン	西部公民館	第4木曜日 10回 健康体操、茶話会
108	サロン・ド・わきあいあい	調布南キリスト教会	第1火曜日 12回 おしゃべり、折り紙、工作
109	サロンひかるげんじ	光源寺香ホール	第4木曜日 10回 おしゃべり、体操、歌

○ひだまりサロン応援スタッフ会議

開催日	内容
5月28日	新規サロン、解散サロン、地域別交流会、サロン便り等
8月20日	新規サロン、地域別交流会、リーフレット等
10月29日	助成金について、地域別交流会等
12月17日	新規相談、地域別交流会等
3月3日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

○ひだまりサロン地域別交流会（内容：グループ懇談会）

開催日	会場（小学校区）	参加数
1月24日	深大寺地域福祉センター （北ノ台、深大寺）	サロン数5（10人）
1月29日	西部地域福祉センター （第三、飛田給、石原）	サロン数22（34人）
1月30日	金子地域福祉センター （若葉、調和）	サロン数6（9人）
1月31日	染地地域福祉センター （染地、杉森、布田）	サロン数17（21人）
2月4日	緑ヶ丘地域福祉センター （緑ヶ丘、滝坂）	サロン数8（11人）
2月5日	総合福祉センター （富士見台、第一、多摩川）	サロン数14（18人）

2月20日	総合福祉センター (若葉、調和)	サロン数3(3人)
2月29日	市民活動支援センター (国領、八雲台、第二) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	サロン数20(29人) ※参加予定人数

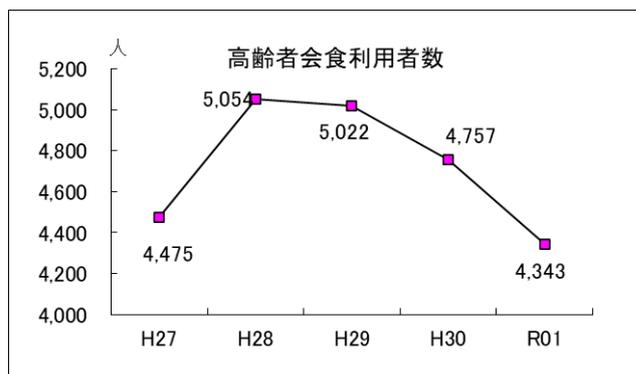
分析・課題

- 地域によりサロンの広まりに偏りがあるため、情報の少ない地域への働きかけを重点的に行っていくたい。
- 社協ホームページ、市民活動支援センターホームページへの更新頻度をあげ、幅広い世代へ情報発信を行っていく。
- 各コーディネーターと連携を図りながら、新規サロンの立ち上げや活動の継続支援を行う。
- 応援スタッフの役割を見直し、新しいスタッフを呼びかけ体制強化を図りたい。
- 福祉圏域に合わせた地域別交流会は実施方法や目的を見直し、サロン同士の交流やひだまりサロンとして必要なことを伝える機会としていく必要がある。
- サロンの目的をスタッフだけでなく参加者にも伝えていけるよう、定期的に活動へ参加し働きかけていきたい。
- スタッフや参加者の高齢化、代表者の交代により活動の継続が難しくなるサロンが増えてきている。定期的な活動の確認など状況把握に努め、活動の継続支援に力を入れていく必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	高齢者会食サービス		市高		利

結果の概要

- 調理ボランティアや地域包括支援センター等関係各所との連携による利用者の見守りが日常的行われており、地域高齢者の安否確認につながっている。
- 富士見地域福祉センターが、改修工事のため5か月間休館となったが、富士見町ふれあいの家にて弁当による会食を実施することで、見守りを継続できた。
- 台風19号の影響を受け、会食の中止判断と被災地近隣の利用者には電話による安否確認を行った。
- 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、2月下旬以降の会食は全て休止とし、電話による安否確認を行った。



実績等

地域福祉センター	利用者数(人)	実施曜日	実施回数	ボランティア数(人)	延べ利用者食数(食)
菊野台	14	火	年間41回	18	518
深大寺	9	火	年間42回	18	292

下石原	12	水	年間 42 回	15	438
富士見	13	水	年間 42 回	15	439
染地	12	水	年間 42 回	21	419
西部	13	木	年間 40 回	18	509
調布ヶ丘	12	木	年間 41 回	17	286
入間	14	金	年間 40 回	22	452
金子	11	金	年間 40 回	23	392
緑ヶ丘	15	木	年間 41 回	15	598
	計 125 人		計 411 回	計 182 人	計 4,343

※利用者数及びボランティア数は令和2年3月31日現在の人数

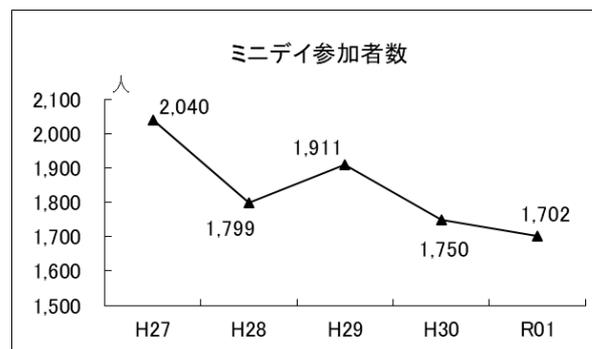
分析・課題

- 今年度は台風による影響と新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会食が休止となった期間があり、休止期間中は電話による安否確認を行ったが、外出や会話の機会が減ったことによる健康面や精神面への対応が課題となっている。
- 班をまとめていたボランティアの引退が目立ち、世代交代が課題となっている。仕事を引退し時間に余裕がある方をどうボランティアとして活動してもらえるかを検討する必要がある。
- 主な活動場所である地域福祉センターの工事が今後も予定されており、工事期間中の見守り方法や近隣の活動場所の確保など、サービス継続に向けた対応を早めに検討する必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(3)	高齢者会食ミニデイサービス		市高		

結果の概要

- ボランティアを中心に運営する拠点（入間・緑ヶ丘）と、講師派遣により運営する拠点（菊野台・深大寺・西部・調布ヶ丘・金子）の2つの形態で実施した。
- 講師からの様子が心配な利用者があるとの連絡を受け、迅速に地域包括支援センターへ繋げることができた。
- 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、2月下旬以降のミニデイは全て休止とした。



実績等

拠点	実施曜日	実施回数	参加人数 (延べ人数)	内 容
菊野台	火曜日	年間 21 回	193 人	レクリエーションダンス
深大寺	火曜日	年間 11 回	61 人	体操
西部	木曜日	年間 21 回	109 人	体操
調布ヶ丘	木曜日	年間 21 回	300 人	体操

金子	金曜日	年間 21 回	256 人	体操
入間	金曜日	年間 9 回	100 人	歌
緑ヶ丘	金曜日	年間 33 回	683 人	体操・歌
		計 137 回	計 1,702 人	

分析・課題

- 延べ利用者数が減少しているが、台風や悪天候による影響に加え、新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きい。
- 拠点ごとの特色を把握し、それぞれの地域ごとに活動の方針やあり方を考えていくことが、今後の事業展開に必要なと言える。同時に講師や協力員の高齢化による負担軽減にも配慮しなければならない。

番号	事業名	財源			
		自主 会費基	補助	委託	事業 参
(4)	小地域交流事業				

結果の概要

- 地域の特徴を生かした集いの場づくりと年間を通じた世代間交流活動を市内13か所で実施した。会場改修や新型コロナウイルス拡大防止のため、イベントを中止した地域があった。
- 13か所のうち、1回限りのイベントではなく継続した取り組みを計画した地域が6か所であった。
- 各地域に所在する福祉施設や学校関係、商店、自治会や地区協議会などの協力を得て、新たな取組を行った地域があり、工夫を凝らした内容となってきた。

実績等

	地域名(会場)	事業名	実施日	参加者(スタッフ)
1	緑ヶ丘地域福祉センター	緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい(パート1)	11/10(日)	450人(40人)
		緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい(パート2)	2/29(土)	中止
2	入間地域福祉センター	三世代輪投げ大会	6/1(土)	50人(19人)
		入間はつらつ地域まつり	11/2(土)	300人(32人)
		新春お茶会	1/18(土)	68人(17人)
3	菊野台地域福祉センター	菊野台地区地域のつどい	11/23(土)	240人(30人)
4	金子地域福祉センター	金子バリアフリー映画体験会	7/19(金)	74人(16人)
		金子ふれあいまつり	11/17(日)	330人(20人)
5	国領小学校	国領わいわいまつり 2019	11/17(日)	870人(80人)
6	深大寺地域福祉センター	ふれあいフェスタ北ノ台	2/16(日)	414人(69人)
7	深大寺小学校	深大寺ふれあいのつどい	6/15(土)	200人(50人)
8	調布ヶ丘地域福祉センター	調布ヶ丘わくわく広場	10/26(土)	303人(40人)
		調布ヶ丘わくわくミニ交流会 みんなでポッチャ&輪投げ&福笑い	2/29(土)	中止
9	こころの健康支援センター	布田わくわく歌声ひろば	6/29(土)	170人(13人)
	布田小学校 こころの健康支援センター	布田小学校梅まつり	9/28(土)	学校行事 469人(11人)

		布田わくわくひろばまつり・地域のつどい	10/27(日)	600人(14人)
10	染地地域福祉センター	みんなおいでよ！～友達になろう～ 第23回ボランティアまつり染地	5/17(日)	680人(100人)
		みんなおいでよ！～友達になろう～ 染地で広げよう、つながろう 令和の『わ』	12/15(土)	93人(15人)
11	富士見地域福祉センター	富士見ふれあいのつどい	6/9(土)	200人(50人)
12	下石原地域福祉センター	下石原地区ふれあいのつどい	11/8(金)	203人(22人)
13	西部地域福祉センター	西部ふれあいのつどい	10/27(日)	400人(40人)

分析・課題

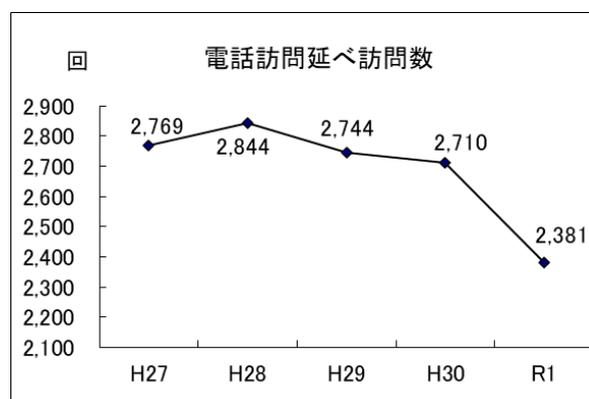
- 実行委員会の構成や内容の幅が広がっている地域、例年通りの内容で参加団体などあまり変化のない地域とそれぞれの特性が表れている。
- 1回のイベントだけでなく、年間を通した取り組みができるよう、事業のあり方を検討していく必要がある。
- 実行委員の高齢化に伴い、当日運営や次世代へつなぐ難しさが課題となっている。
- 主な会場である地域福祉センターの老朽化や手狭さ、メインホールが和室であることなど、物理的制限を課題としている地域が増えている。すでに近隣の小学校を会場にしている地域もあり、各地域で会場変更や複数日開催などの工夫が必要となっている。
- 令和2年度も地域福祉センターで改修工事が予定されており、実施の有無や時期、内容等検討が必要な地域がある。

3 住民主体の訪問活動

番号	事業名	財源			
		自主	補助 市高	委託	事業
(1)	ほのぼの電話訪問				

結果の概要

- ボランティアである電話訪問員10人（月～金：各2人）が午前中、利用者に電話を掛け安否確認を行うとともに、話をすることで孤独感の緩和を図った。
- 熱中症予防や住宅火災予防、振込め詐欺等への注意喚起と情報提供を、訪問員を通じて利用者へ適宜行った。
- 訪問員からの報告により家族やケアマネージャー、地域包括支援センター、地域福祉コーディネーター、民生児童委員等と連携を図り適切な支援を行うことができた。
- 利用者の転居や死亡、他サービスの利用による辞退、および利用者の高齢化に伴う通院や入院による休止者も増加し、延べ訪問回数が減少した。
- 訪問員研修として「傾聴」をテーマに、日本傾聴ボランティア研究センター理事長 澤村直樹氏を講



師に招いた講演会を7月と10月に開催した。

(地域福祉権利擁護事業、友愛訪問事業、ふれあい給食事業との合同開催)

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月に予定していた第5回電話訪問員会議は中止した。

実績等

○利用実績

月	利用者数 (人)	訪問回数 (回)	月	利用者数 (人)	訪問回数 (回)
4月	60	196	10月	57	224
5月	58	191	11月	58	201
6月	59	208	12月	56	192
7月	58	224	1月	51	183
8月	59	212	2月	51	162
9月	56	197	3月	49	191
			合計	672	2,381

※電話訪問員からの午前中の電話に回答がなく、午後から安否確認をした件数 181件
(電話で安否確認が取れず利用者宅を訪問した4件(全員無事)を含む)

○電話訪問員会議・研修

月 日	項目	内容
4月9日	第1回電話訪問員会議	新年度体制について、近況報告・事例検討
7月1日	研修会	傾聴入門講座
7月3日	第2回電話訪問員会議	近況報告・事例検討
9月12日	第3回電話訪問員会議	近況報告・事例検討
10月1日	研修会	傾聴入門講座 応用編
11月15日	第4回電話訪問員会議	近況報告・事例検討
3月11日	第5回電話訪問員会議	新型コロナウイルスの影響により中止

分析・課題

- 「電話訪問を楽しみにしている」「一週間ぶりに人とおしゃべりができた」と喜ばれる方が多かった。利用者だけではなく、訪問員にとっても充実感のある活動となっている。
- 下半期になってから、死亡・サービスの重複などによる利用中止が相次ぎ、曜日や訪問員によって担当利用者人数の差が大きくなっている。次年度は今まで以上に広報に力を入れ、民生委員や地域包括支援センターへの周知を図っていく。

番号	事業名	財源			
		自主	補助 市高	委託	事業
(2)	友愛訪問事業				

結果の概要

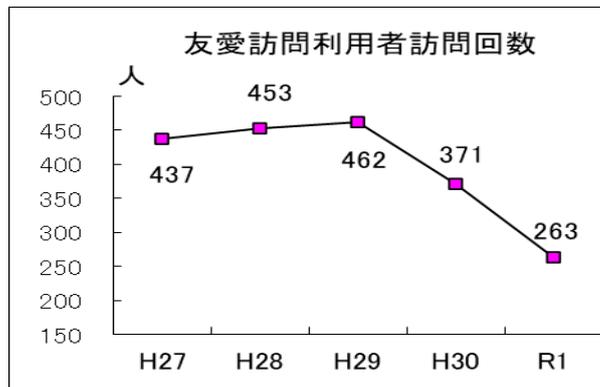
- 友愛訪問員(ボランティア)12人が、週1回1時間程度高齢者宅を訪問し話し相手となることで、孤独感の緩和を図った。

○訪問員から報告のあった利用者の心身の変化を家族や社協内他部署、地域包括支援センター、ケアマネジャー等に伝え、連携して事故の防止を図った。

○熱中症予防や住宅火災予防、振込め詐欺等への注意喚起と情報提供を、訪問員を通じて適宜行った。

○訪問員研修として「傾聴」をテーマに、日本傾聴ボランティア研究センター理事長 澤村直樹氏を講師に招き、7月と10月開催した。(地域福祉権利擁護事業、ほのぼの電話訪問事業、ふれあい給食事業との合同開催)

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降訪問員による訪問をやめ、電話で安否確認をとった。訪問員連絡会も中止とした。



実績等

月	利用者数 (人)	合計訪問 (回)	友愛訪問員連絡会		
			回数	日付	内容
4	14	27	1	8日	新年度体制、活動報告、情報交換等
5	14	28	1	13日	活動報告、情報交換等
6	13	25	0		なし
7	12	26	1	8日	活動報告、情報交換等
8	12	25	0		なし
9	11	23	1	9日	活動報告、情報交換等
10	11	24	0		なし
11	12	22	1	11日	活動報告、情報交換等
12	12	25	0		
1	12	19	1	13日	活動報告、情報交換等
2	12	19	0		
3	0	0	0		感染防止のため訪問、会議なし
計	135	263	6		

分析・課題

○歩行困難で外出して人と会う機会が減った、また、聞こえにくくなり大勢が集まる場所での会話が困難になったり等の理由で、事業のニーズが高まっているが、現状ではひとりの訪問員が複数の利用者を受け持っているため、負担を考え訪問員を増やすことが必要と考えられる。

また、男性の利用希望者も増加傾向にあることから男性訪問員（現状2人）の増員検討も必要と考えられる。

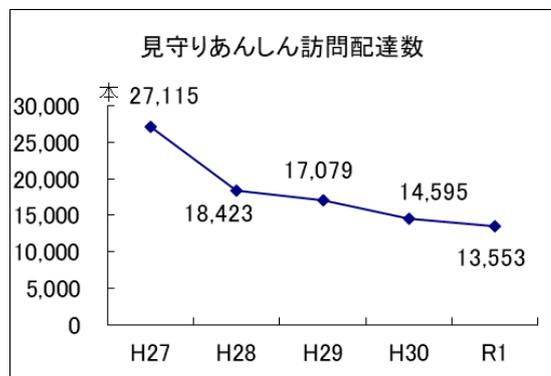
○訪問員が高齢化傾向にあり、安全に活動できるよう引き続き活動環境（活動地域、利用者の担当数および訪問間隔）の配慮が必要と考えられる。

4 企業との協働活動

番号	事業名	財源			
		自主 会費	補助	委託	事業
(1)	見守りあんしん訪問事業				

結果の概要

- 週2回（月・木曜日）ヤクルトレディが高齢者宅を訪問し、乳酸菌飲料の手渡しと声掛けで安否確認を行った。
- 訪問時、ヤクルトレディが利用者宅の異変や利用者の変調を察知した際の緊急連絡が徹底されてきた。
- 訪問状況の把握やスムーズな利用につなげることを目的に、東京ヤクルト販売(株)と配達区域3か所のヤクルトセンターにて意見交換を行った。
 - ・狛江センター …………… 7月2日
 - ・調布ヶ丘センター ……… 7月5日
 - ・布田センター …………… 7月9日
- 東京ヤクルト販売(株)、緊急連絡先、民生児童委員、ケアマネージャー、地域包括支援センターなどと連携し、ひとり暮らし高齢者の安心のみならずご家族の安心にもつなげることができている。
- 民生児童委員の協力を得て、2年に1回の利用登録更新手続きを行った。



実績等

	安否確認 (件)	利用者数 (人)	配達本数 (本)	支払金額 (円)		安否確認 (件)	利用者数 (人)	配達本数 (本)	支払金額 (円)
4月	64	214	1,266	109,385	10月	45	191	1,233	106,508
5月	39	215	1,114	96,274	11月	47	188	1,041	89,965
6月	50	216	1,255	108,433	12月	28	182	1,021	88,234
7月	29	214	1,247	107,744	1月	47	181	1,025	88,582
8月	38	202	1,087	93,945	2月	32	183	1,016	87,801
9月	27	189	947	81,803	3月	41	181	1,301	112,458
※利用者数には休止者を含む					合計	487	2,356	13,553	1,171,132

- 安否確認の件数は 487 件であった。（平成 30 年度：622 件）
職員の自宅訪問による安否確認はなかった（平成 30 年度も無し）が、ヤクルトレディの訪問時の機転（早期対応）により、1 件の救急(119)対応で救命ができた（被救命者は当日に帰宅）
- 台風 19 号の影響で配達中止となったが、利用者へは電話による安否確認を実施した。
- 利用者の転居や死亡、他サービスの利用による辞退、および利用者の高齢化に伴う通院や入院による休止者も増加し、配達本数が減少した。

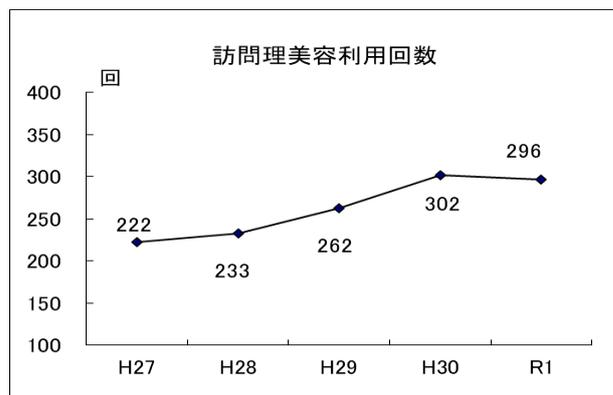
分析・課題

- 他のサービスを利用されていない方にとって、大切な見守りの機会となっている。必要と思われるサービスや支援の受け入れに拒否的な方も、本事業への抵抗感は薄いようで、今後の適切なサービスや支援へつなげるきっかけともなっている。
- 孤独死や孤立死は依然社会問題となっており、見守りが行き届いていない高齢者の利用につながるよう、事業を周知していきたい。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	高齢者訪問理美容サービス		市高		

結果の概要

- 令和元年度新規申請者は81件であった。申請後、利用する前に施設入所や亡くなられた方がいたため、申請者数は増加しているが利用回数は減少したと思われる。
- 従事者のサービスの質を高めるため、理容組合・美容組合の会員を対象に、『高齢者に多い感染症』『地域包括支援センターの役割や担当事業について』等をテーマに研修会を実施した。各組合が調整し、多摩府中保健所の衛生講習も同日に実施した。



- サービス対象外である要介護2以下の方からの「実費でも訪問理美容を依頼したい」という問い合わせには、以前に引き続き協力理容店と美容組合の「福祉美容サービス」を紹介する等の対応をした。
- ふくしの窓、市報に事業の利用案内を掲載した。

実績等

- 利用回数 296回（理容162回／美容134回）
- 申請者数 166人（前年度153人）
- 理美容券を全て使用した人は41人であった（申請者数の約25%）。
- 前年度は49人だったため、8人減少した。

分析・課題

- 令和元年度は平成30年度に比べて、申請者数が13人増加したが、利用回数は6回減少した。対象外の方からの問い合わせも依然あり、今後も続くと思われる。
- 利用者アンケートを実施したところ、「外出することが難しいので訪問してもらえてありがたい」「丁寧に対応してもらえて嬉しい」等、サービス内容に満足しているという回答が多く、訪問による調髪のニーズの高さがうかがえた。

5 人材育成

番号	事業名	財源			
		自主	補助 市障	委託	事業 参
(1)	手話講習会事業				

結果の概要

- 日常会話程度の手話を学びたい人・登録手話通訳者を目指したい人のために、手話の普及コース・手話通訳養成コース、それぞれ2年間のコースに分かれて実施した。
- 昨年度と同様に入門クラスは、聴覚障がい者講師をメイン講師とし、健聴者講師をサポート講師として配置した。また基礎クラスに関しては、聴覚障がい者講師のみの配置とした。
- 手話通訳を養成するための養成（基本・応用）クラスは、35回の講習会の内の10回で聴覚障がい者講師がメイン講師を担当し、授業を行った。
- 手話講習会の講師の人材育成、及び授業内容の質の向上を図るため、外部講師を招いて講習会講師向けの研修会を3回行った。
- 次年度の手話講習会の受講生募集を幅広く周知するために広報誌「福祉の窓」の一面に調布市聴覚障害者協会および調布市民放送局の協力を得て、ろう者の親子の会話動画を制作し、掲載した。
- 新型コロナウイルスの影響により、養成基本クラス選考試験は書類選考の上、申込者全員19名を合格とした。

実績等

○講習課程

年間35回（入門・基礎クラスは34回（※））の講習会を実施した。

ア 技術取得	年30回
イ 学習発表会	年1回
ウ クラス別講演会	年1回
エ 全体講演会	年1回
オ 開講式・閉講式	年2回

※入門・基礎（昼）（夜）コースともに閉講式はコロナウィルス感染拡大を受け、中止となった。

○受講者数

	コース名	定員(人)	受講者数(人)	修了者数(人)
火曜日 昼間	入門	40	15	10
	基礎	35	29	27
	養成基本	20	14	13
金曜日 夜間	入門	40	28	19
	基礎	35	23	14
	養成応用	15	10	8
合計		185	119	91

○費用

年間4,000円（その他教材費は実費負担）

○全体講演会・全体交流会

	日時	場所	参加者数	内容
学習発表会	11月15日	たづくり 大会議場	90人	クラス毎に学習進捗に合わせた発表を行った。
全体講演会	1月10日	たづくり 大会議場	86人	森田昭氏（明晴学園教頭）を招きNHK「みんなの手話」出演時のエピソード、ろう教育と日本手話の関係について講演頂いた。

○世話人会

年3回実施⇒各クラスの進捗状況報告、学習発表会、全体講演会、閉講式の準備

○講師会

年5回実施⇒各クラスの授業内容・進捗状況の確認、全体講演会や講師研修の講師の検討
次年度の講習会について検討

○講師研修

年3回実施⇒各講師が模擬授業を行い、外部講師から指導、助言を頂いた。

分析・課題

○手話普及コースの入門・基礎クラスは10代から80代の方まで、幅広い層が参加している。学習発表会や全体講演会などのイベントやクラス別講演会、ろうゲストを招いての授業を通して、障がい理解の促進、受講生の学習の意欲の向上や受講生同士の交流を図ることができている。

○昨年度同様、講師研修を3回実施した。講師や研修内容を検討しながら、講習会の質を高められるよう次年度も研修を実施していく。

○継続した事業運営が図れるように次世代の講師、世話人の育成も視野に入れた体制の構築を検討していく。

○前期・後期の2回に分けて授業の振返りと次年度の受講希望確認を目的に、受講生にアンケートを実施した。集計結果をもとに、受講内容や講師の指導方法や体制など、今後につなげられるよう継続していく。

○例年学習発表会は夜間に実施しているが、やむを得ず欠席せざるを得ない昼クラスの受講生がいることから、次年度は昼・夜クラス毎の実施を検討する。

○次年度の受講生の募集のため、福祉の窓一面にて動画視聴をおこなえる2次元コードを掲載するなど周知を行った結果、入門クラスにおいて、昼クラス37名、夜クラス40名の申し込みがあった。年齢層の若い方の申し込みが多かったことから、今後の様々な媒体を活用したPRを行っていく。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	研修の場の提供				

結果の概要

○福祉の専門的な知識・技術の学びを深めることを目的として実習生の受け入れを行った。

○社会福祉の実践・実習教育として、大学等の各種学校及び企業の人材育成に協力し、研修生、実習生の受け入れを行った。

実績等

○令和元年度実習生受入校・企業

No.	学校・企業	人数	日数	No.	学校・企業	人数	日数
1	駒澤大学	1人	23日	12	桐朋学園大学	1人	5日
2	明治学院大学	1人	24日	13	明治学院大学	1人	5日
3	日本大学	1人	12日	14	京王バス	2人	1日
4	法政大学	1人	24日	15	慈恵医科大学	3人	5日
5	日本社会事業大学	2人	24日	16	慈恵医科大学	3人	5日
6	日本福祉教育専門学校	1人	24日	17	慈恵第三看護専門学校	54人	4日
7	桜美林大学	1人	24日	18	調布市立第三中学校	2人	5日
8	首都大学東京	1人	24日	19	調布市立第五中学校	2人	5日
9	東京音楽大学	2人	5日	20	調布市立神代中学校	2人	5日
10	東京未来大学	1人	5日	21	調布市役所（実習生）	3人	5日
11	城西大学	1人	5日		合計	86人	239日

※社会福祉士実習は原則24日間だが、学生との調整の結果24日間では時間数が足りない場合もあったため、日数にばらつきがある。

分析・課題

- 社会福祉士実習の受け入れについては、個々の実習生に学校での習熟度や実習に対する意欲に大きな差が見られるため、受け入れの手続きにおいて、各校担当教員との意見交換が必要である。
- 社会福祉士実習のプログラムは原則24日間で各部署を回るような形で受け入れてきた。学校からの要望で特定の部署での実習生受け入れ依頼もあったが、社協の事業は多岐に渡るため、社協の特色を活かし各部署での実習を基本に受け入れを行った。

6 団体支援等

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	地域福祉活動支援事業			市総	

結果の概要

- 地域で活動を行っている団体に対して、活動の充実、発展を支援するための助成事業を実施。
- 申請9団体全てが書類選考を通過。公開プレゼンテーションを経て、9団体に助成決定されたが、1団体辞退となり、今年度は8団体に助成を行った。
- 年度末の活動報告会は、新型コロナウイルスの影響で中止となり、活動報告を読んだ検討評価委員より講評をいただいた。

実績等

○選考

日程	平成31年4月20日（土）
----	---------------

場 所	調布市総合福祉センター2階201～203
内 容	応募団体の公開プレゼンテーションにより、検討評価委員が選考。 8団体助成決定。

○助成団体（8団体）

団体	活動内容
バリアフリースマホ教室	障害者の自立と社会参加を図るため、視覚障害者にスマートフォンの基礎的な操作技術や最新アプリの使用方法を取得する機会を提供するスマホ講習会の開催。
フードバンク調布	市場に出すことはできないが消費するには十分に安全な食品を企業、個人から提供してもらい、必要としている福祉施設や生活困窮者などに届けるフードバンクシステムを構築する。
調布失語症友の会「話楽」	『失語症者相互の交流の輪を広げる』を主眼に、失語症者が情報交換や親睦を通じ、生き甲斐のある生活を営めるように支援することを目的とする。
調布・桜いきいき支部	平成27年度創設のスポーツ吹き矢団体。健康増進と生き甲斐の創造を活動目的に、市内公共施設にて定期練習実施。また他団体に講師として出向いたり、イベントにも参加している。
GAGANI Plus	調布市からナショナルチーム（水泳）の選手を輩出する。競技としての障害者水泳クラブ、及び練習の場所を提供する。
一般社団法人 すこっぷ	発達障害児やその家族が地域で安心安全に暮らしていけるよう正しい認識と地域支援体制を作る、地域と接点・交流機会を持つことで理解者を拡大することが目的である。
多摩ともだちひろば の会	調布の里山「かに山」をベースに野外遊びを提供。自然と触れ合い、五感を使っての直接体験を通して、子どもが自ら学び、自ら考え、行動することで、子どもの成長と発達を促すとともに、親子関係や異年齢児や世代間との交流を深め、様々な価値観を共有し、信頼感を形成することを目的とする。
つつじヶ丘地域こども食堂	平成29年度に立上げられ、西つつじヶ丘にあるシェアハウスにて月に一回子ども食堂を実施。小学生・中学生の若者世代、その母親たち、また一人暮らしのシニアの交流を目的としている。

○活動報告会

本年度は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったため、書面にて検討評価委員の講評となった。

分析・課題

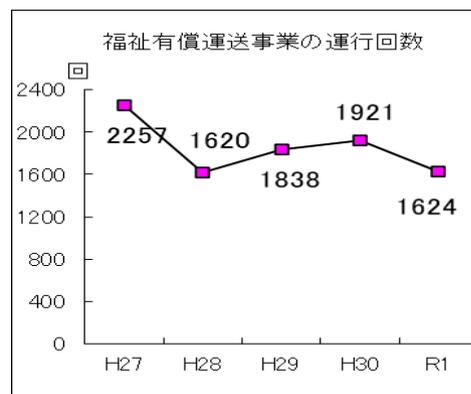
- 今年度から助成金総額が減少したが、申請が昨年度を上回る9団体の申請となった。そのため配分できる金額は少なくなり、各団体とも申請額のおよそ半額での助成となった。
- 今後も助成配分金が大幅に増加することは難しいと思われる。限られた助成金の中で、地域福祉推進に関わる団体に効果的に配分し、各団体の交流など促進していけるかが課題である。

○本助成事業は助成金支援だけではなく、新しい活動を行う団体活動全体の支援を目指している。地域支援を担当している地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）や地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）と連携して、包括的な支援をしていきたい。

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業
(2)	福祉有償運送に係る補助金交付事業				

結果の概要

○既存の交通機関を利用して外出することが困難な市民の在宅介護の一助として実施する福祉有償運送を行うNPO法人への運営費補助を行った。



実績等

○利用目的別運行実績

区分	利用目的別件数					合計
	通院	通園(所)	社会参加	入院	退院	
4月～6月計	201	6	153	2	2	364
7月～9月計	222	5	95	1	3	326
10月～12月計	255	7	201	5	6	474
1月～3月計	208	5	235	4	8	460
合計	886	23	684	12	19	1624

分析・課題

- 運行回数は、増加傾向だったが今年度は減少となった。
- 定期受診を利用していた利用者が辞めたことや新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用を控えたことが減少の要因と考えられる。
- 地域包括支援センターなど関係機関を中心に広報活動を実施しており、今年度は関係機関からの紹介でつながる利用者がいた。
- 広報活動を続けていくことが利用者増加につながると考えられる。
- NPO調布ハンディキャブメンバーの高齢化が進んでおり、人員不足が今後課題となる可能性があるため、サービスの認知度を高めるためのPRに併せて人員募集も積極的に行っていく必要があるのではないか。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(3)	調布市老人クラブ活動支援事業			市高	

結果の概要

○連合会活動をよりスムーズに行うことができるよう事務局として支援した。

- 事業ごとに、専門知識を持った会員を選出することで自主的な運営をしている。
- 会計の負担軽減のため、調布市高齢者支援室と共同で地区協議会に参加し、会計相談会を実施した。
- 一部の行事に関しては市報に掲載し、老人クラブの活動を会員以外の方に周知できた。
- 市主催の敬老会に参加協力し、連合会の活動PRに努めた。
- 市老連広報誌「不老又新」を会員だけではなく、市役所高齢者支援室窓口、各地域福祉センター、老人憩いの家に配架、また他団体の講演会などで配布をし、広く市民に周知できた。
- 囲碁を中心に活動している団体を新規老人クラブとして加入してもらうことができた。
- 平成31年4月現在 単位クラブ数 35クラブ 会員数 1,830人

実績等

1	会議関係	総会	4月18日 グリーンホール小ホール	65人
		理事会	12回	延211人
		会長会議	2回	延82人
		会計監査	4月4日、10月30日	延4人
		指導者研修会	7月4日～5日 1泊2日	55人
2	友愛実践活動	友愛リーグ会議	5回	延56人
		友愛実践活動研修会	2回	延183人
3	グラウンドゴルフ大会	第23回大会	10月31日 調布基地跡地運動場 (E-3)	171人
		専門委員会、反省会	計3回	延48人
	グラウンドゴルフ練習	毎週水曜日 調布基地跡地運動場 自由広場		自由参加
		毎週金曜日 多摩川河川敷ソフトボール場		
	ペタンク大会	第41回大会	5月31日 調布基地跡地運動場	71人
		専門委員会、反省会	計2回	延11人
	ゲートボール大会	親睦会	11月1日 北部ゲートボール場	38人
		専門委員会	1回	2人
	輪投げ大会	第56回大会	6月23日 国領小学校体育館	221人
		専門委員会、反省会	計3回	延36人
みんなの健康教室	教室	2回	164人	
	専門委員会	計3回	30人	
健康吹き矢教室	練習	計12回	278人	
4	将棋大会	将棋大会	12月13日	18人
		専門委員会	1回	3人
	囲碁大会	囲碁大会	9月4日	34人
		専門委員会、反省会	計3回	延18人
	俳句大会	俳句大会	1月10日	29人
		専門委員会	1回	6人
	会員作品展	会員作品展	9月12日～16日<5日間> たづくり南北ギャラリー	延575人
		専門委員会、反省会	計3回	延73人

第1部 第2地域福祉

	芸能大会	第52回大会	10月4日 グリーンホール大ホール 演目33 出演383人	入場者 636人
		専門委員会	1回	5人
	カラオケふれあいの集い	第28回カラオケふれあいの集い	新型コロナウイルス感染の 拡大により中止	
		専門委員会	2回	15人
	囲碁教室	練習	22回	385人
	不老又新		不老又新夏号、新春号の発行	年2回
5 女 性 部	女性部全体会		5月15日 活動目標、活動予定ほか	55人
	女性部常任委員会		5回	延79人
	女性部ブロック委員会		4回	延206人
	調布よさこい		8月26日調布駅前、グリーンホール	25人
	レクダンスの伝承		計2回	延50人
	日帰り研修旅行		10月16日	159人
	女性部おたのしみフェスタ		新型コロナウイルス感染症の 拡大により中止	
6 そ の 他	木島平村交流			中止
	玩具の伝承	調布よさこい	8月25日 グリーンホール	27人
		福祉まつり	12月1日 総合福祉センター2階	21人
		むさ森公園フェスタ	9月28日 武蔵野の森公園北地区	6人
		こどもあそび博覧会	9月28日 北ノ台小学校	3人
		多摩小総合学習	1回	9人
		実行委員会	計4回	延56人
	新春のつどい	式典・懇親会	1月16日 グリーンホール小ホール	105人
	敬老会		9月16日 グリーンホール(大小)	28人
	市老連一泊旅行		2月13日~14日	43人
みずほ記念財団地域支え合い応援事業		計3回	延118人	
7 東 京 都 老 人	女性部全体会(東京都健康プラザハイジア)		4月26日	2人
	レクダンス・エアロビクス指導者研修会		6月3日	7人
	東老連新任単位クラブ会長研修会(四谷区民ホール)		6月18日	2人
	東老連輪投げ大会(渋谷区スポーツセンター)		6月21日	11人

ク ラ ブ 連 合 会 関 係	関東甲信越静ブロック老人クラブリーダー研修会 (箱根湯本温泉ホテルおかだ)	6月27日	2人
	東老連女性リーダー連絡会議及び手作り品講習会 (立川柴崎福祉会館)	8月20日	3人
	東老連女性リーダー宿泊研修会(上諏訪温泉浜の湯)	9月3日 ~4日	2人
	東老連ペタンク大会(武蔵野中央公園)	10月9日	8人
	東老連グラウンド・ゴルフ大会(武蔵野中央公園)	11月18日	12人
	東京都老人クラブ大会(文京シビックセンター)	12月4日	10人
	東老連シニア健康フェスタ(駒沢公園体育館)	11月21日	34人
	市区町村老連会長並びに役員研修会 (福島県母畑温泉八幡屋)	12月10日 ~11日	1人
	東老連新年会(目黒雅叙園)	1月10日	3名
8 東 老 連 多 摩 地 区 第 4 ブ ロ ッ ク 関 係	多摩地区第4ブロック女性部推進リーダー会議 (狛江市民センター)	6月10日	2人
	多摩地区第4ブロック会議(小金井市民交流センター)	6月15日	5人
	多摩地区第4ブロック軽スポーツ交流会代表者会議 (総合福祉センター)	7月18日	5人
	多摩地区第4ブロック健康教室事業筋力トレーニング (三鷹市ボランティアセンター)	10月9日	4人
	多摩地区第4ブロック健康教室事業滑舌トレーニング (小金井市社会福祉協議会)	11月14日	3人
	多摩地区第4ブロック健康教室事業滑舌トレーニング (小金井市社会福祉協議会)	11月14日	3人
	多摩地区第4ブロック軽スポーツ交流会輪投げ大会 (調布市総合体育館)	11月19日	20人
	多摩地区第4ブロックシニアフェスタ練習 (狛江市上和泉地域センター体育館)	10月7日 11月18日	延62人

分析・課題

- 会員減少の原因の一つである会計処理問題緩和のため、会計処理マニュアルの継続的使用してきたが、時代の移り変わりにより、実勢に伴わない部分も見つかった。市と問題点を共有し内容の確認を行い、新規作成をする予定である。
- 会員が減少・高齢化しているクラブが増加していることから、若い世代の新規会員を増やすことが急務である。ニーズに合った活動を提案し、実施していく必要がある。
- 若い世代の会員を増やすために、これまで主に紙ベースで行っていた広報活動に加え、ホームページを公開したが、情報更新を迅速に行えず、如何にして新鮮な情報を公開できるか検討する必要がある。

- 会員数の減少に伴い運営が厳しくなるクラブに対し、自クラブでの活動の足りない部分を市老連活動で補完してもらい、楽しいクラブ活動を維持し、会員増強のきっかけとなるよう協力を行う。
- 連合会活動の活性化のため、比較的若い世代の会員で総務部の強化を進め、自主的に問題点の洗い出し、修正を行えるよう準備を行う。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(4)	調布市障害者（児）団体連合会への支援				

結果の概要

- 各団体との連絡調整及び活動を円滑にするため、年2回評議員会を行った。
- 各団体のつながりを深めるために室内でのゲームやクイズを中心とした交流会を実施した。
- 合同会議では、「ラグビーワールドカップの振り返りと、オリパラを迎えるにあたって～福祉的な側面から考える～」をテーマに警察署、消防署、障害福祉課や福祉総務課等の行政機関を招き、グループワークを行う中で当事者・家族の現状を伝えるとともに、お互いの障がい理解の促進を目的とした。

実績等

行事	実施日	実施回数	参加者	内容
会計監査	5月11日	年1回	監査2人 事務局3人	30年度会計監査
総会	6月4日	年1回	評議員11人 事務局5人	30年度決算、事業報告 31年度予算、事業計画
評議員会	第1回 6月4日 第2回 11月7日	年2回	第一回 評議員11人 (事務局2人) 第二回 評議員14人 (事務局5人)	行事計画について 交流会準備実施
交流会	11月7日	年1回	参加者計33人 事務局5人	総合福祉センターにて、 障害者団体連合会会員 とその家族とともにポ ッチャ、クイズ大会等の 交流を図る。
合同会議	2月14日	年1回	参加者計28人 事務局4人	総合福祉センターにて 「ラグビーワールドカ ップの振り返りと、オリ パラを迎えるにあたっ て～福祉的な側面から 考える～」をテーマに警 察署、消防署、障害福祉 課等の行政職員等とグ ループワークを実施。

分析・課題

- 財源は各団体からの分担金5,000円のみであり、交流会の支出を抑えるなどの工夫はあったものの、他の財源確保は見込めず、今後の検討が必要になってくると思われる。
- 行政機関を招いての行事は、議会の開催時期などと同時期にならないよう調整が必要である。

番号	事業名	財源			
		自主 基	補助 市総	委託	事業
(5)	福祉団体等事業助成				

結果の概要

- 障がい者団体や高齢者団体等の会運営や事業に対し助成を行い、団体の活動を支援した。

実績等

- 団体助成、大会助成

No.	団体名	助成内容	助成額
1	調布市原爆被害者の会	会運営費・平和大会	20万円
2	調布市遺族厚生会	会運営費・平和祈念祭	28万円
3	共同募金調布地区協力会	会運営費	20万円

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(6)	機材の貸出				

結果の概要

- ボランティアグループ、福祉施設、公的機関等の事業に対して、テント、パネル、スクリーン等の社協機材の貸出を行った。
- 故障等への対応、貸出のルールの特化、物品ごとの色分け等、工夫を行ったことで、予約の重複や物品の紛失など大きな問題はなく貸出ができた。

実績等

- 令和元年度貸出件数一覧

社協機材	貸出件数	社協機材	貸出件数	社協機材	貸出件数
テント(大)	24件	ポップコーン機	19件	パネルフック	2件
テント(小)	24件	ブルーシート	13件	ビンゴ抽選機	1件
テントウエイト	29件	ポッチャー式	19件	拡声器	4件
ワイヤレスアンプ	63件	CDラジカセ	119件	折りたたみ椅子	42件
プロジェクター	204件	有線マイク	31件	スクリーン	264件
冷水用ジャー	14件	パネル	7件	輪投げセット	14件
延長コード	91件	パネル足	7件	譜面台	26件
移動式赤ちゃんの駅	6件	書画カメラ	2件		
合計	1035件				

分析・課題

○福祉活動の充実を側面から支援するため、貸出ルールの徹底及び貸出物品を使いやすく整備する。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(7)	後援・共催事業				

結果の概要

○市内各種団体が福祉活動を実施するに当たり、依頼に応じて後援を行った。

実績等

○令和元年度開催後援事業一覧

No.	事業名	主催団体
1	2019アースデイ in 調布	2019アースデイ in 調布
2	生きいきワクワク体験・親子の集い	NPO 法人全国教育ボランティアの会
3	夏休み特別企画・おやこ工作フェスタ	アズコヤ3
4	それはおしゃれなコンサート	社会福祉法人 調布を耕す会
5	市民向け SDGs（持続可能な開発目標）講座	NPO 法人ちょうふこどもネット
6	府中・多摩・調布ほっとハート2019 in 大國魂神社	調布市福祉作業所等連絡会
7	ハッピーこどもプロジェクト【みんなの文化祭】	NPO 法人 自立へのかけ橋 こども福祉協会 B-power
8	第30回（令和元年度）福祉講演会	公益財団法人調布ゆうあい福祉公社
9	「空き家活かし方会議 ～地域の魅力を活かしたゲストハウス編～」	調布市役所都市整備部住宅課
10	健康歌声サロン	健康歌声サロンの会
11	市民フォーラム「私の健康法」	調布市自治会連合協議会
12	手作り市	手作り市
13	第15回 深大寺短編恋愛小説「深大寺恋物語」 公募事業	深大寺短編恋愛小説実行委員会
14	巣立ち会第16回愛のふれあいコンサート	社会福祉法人 巣立ち会
15	2019年度無料法律相談会	弁護士法人 多摩パブリック法律事務所
16	第12回多摩川名月祭・第6回多摩川十三夜	待宵月の会
17	「第6回調布市伝統文化交流会」	調布伝統文化伝承の会
18	第42回住宅デー	東京土建一般労働組合調布支部
19	地域交流わかばまつり	NPO 法人わかばの会
20	伝わるデザインと情報発信の極意	調布地域情報化推進協議会
21	調布さくらウインドオーケストラ 第3回定期 演奏会	調布さくらウインドオーケストラ
22	調布さんま祭プロジェクト	調布さんま祭プロジェクト実行委員会

	～東北と調布をつなぎ共に未来へ～	
23	第14回 調布フィーリングアーツ ダンス&バレエライブ	調布フィーリングアーツ
24	映画『海洋天堂』上映& ミニトーク「わたしのはたらくところ」	調布市福祉作業所等連絡会
25	第30回調布親子まつり	調布親子まつり実行委員会
26	第6回調和SHCフェスタ ーパラスポーツを体験しよう！ー	NPO法人調和SHC倶楽部
27	東日本大震災慰霊祭2020あの日を忘れない	東日本大震災慰霊祭 2020 実行委員会
28	東部市民講座 ドキュメンタリー上映とお話「生きるのに理由はいるの?～ 『津久井やまゆり園事件』が問いかけたものは」	調布市東部公民館
合 計		28件

○令和元年度開催共催事業一覧

No.	事業名	主催団体
1	「話楽」年次講演会 「あきらめるな！失語症に対する最新の治療」	調布失語症友の会「話楽」
2	「高次脳機能障害とともに奏でる 秋の多摩マインドフルコンサート 2019」	東京慈恵会医科大学付属第三病院 リハビリテーション科
3	高齢者・障害者のための成年後見相談会	公益社団法人成年後見センター・ リーガルサポート東京支部
4	「ひきこもりで悩む方に向けた講演会・相談会」	調布市子ども・若者支援地域ネットワーク とちぎ青少年自立援助センター
5	「北ノ台ふれあい朝市」	北ノ台まちづくりネットワーク
合 計		5件

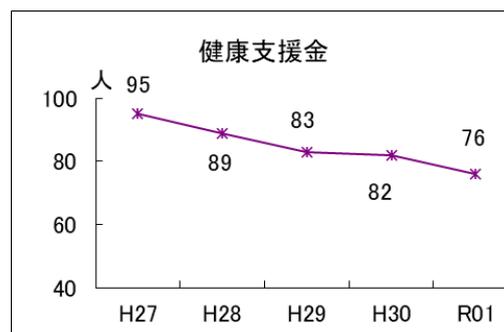
番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(8)	健康支援金		市総		

結果の概要

○健康支援金給付事業事務取扱要領に基づき、被爆者健康手帳の交付を受けている方に健康支援金を口座振込みにより給付し、福祉の増進を図った。

実績等

○支給人数76人



番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(9)	中央競馬馬主社会福祉財団助成事業				

結果の概要

- 平成24年度より中央競馬馬主社会福祉財団の公益財団法人の移行に伴い、NPO法人に関して直接助成が可能となった。引き続き無認可の施設に関しては社協からの申請・管理となる。
- NPO法人が申請を行う場合、当該施設の所在地域の社協の推薦状が必要となり、令和元年度は申請なし。
- 事業総額費の70%を財団が助成を行い、30%は施設の自己負担分となる。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(10)	招待事業				

結果の概要

- 企業、奉仕団体等より、障がい者や高齢者、事業協力者に対する招待をいただき、社協が窓口となって、イベント等に招待した。

実績等

- 令和元年度調布市花火大会（令和元年9月7日）への招待
東京調布ライオンズクラブよりチケットのご寄附を頂いた。

【招待団体】

社会福祉法人調布を耕す会、社会福祉法人新樹会、NPO法人クッキングハウス会、NPO法人リフレッシュ工房、NPO法人羽ばたく会、NPO法人調布心身障害児・者親の会、ちょうふ地域権利擁護センター、希望の家、手話サークル調布の会、東京レインボー倶楽部、杜のハーモニー、みんなでポッチャ、ハミング、サンソの会、手話サロンリベルテ、調布市障害者地域活動支援センタードルチェ

○味の素スタジアムFC東京公式戦招待

日にち	対戦相手	招待人数	招待施設名
6月15日(土)	ヴィッセル神戸	30人	社会福祉法人新樹会 希望ヶ丘
			NPO法人羽ばたく会 めじろ作業所
			一般社団法人ソウスマイル スマイルパーク CHOFU
			NPO法人らぶらんど らぶらんど調布
			NPO法人わかばの会 わかば事業所
8月10日(土)	ベガルタ仙台	32人	社会福祉法人大泉旭出学園 旭出調布福祉作業所
			社会福祉法人調布を耕す会 しごと場大好き

			NPO 法人わかばの会 わかば事業所
			さるすべり
			社会福祉法人新の会 はあと・ふる・えりあ

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(11)	調布市いきいきクラブ調理運営協議会事務局			市高	○

結果の概要

- 通所介護「アイビー」の利用者に昼食を提供する調理ボランティア団体「調布市いきいきクラブ調理運営協議会（以下「協議会」）」の事務局として支援した。
- 第5週目の元々活動のブロックがない日については、18回中4回会員の協力で調理活動を行い昼食提供ができた。調理活動のない日は仕出し弁当対応としたが、そのうち6回のみそ汁作り協力があった。
- 「アイビー」の利用者と同じテーブルで会食することで交流が図れた。
- 会員の高齢化等により退任する方が多く慢性的に人手は不足していたが、会員間の協力により昼食提供を続けることができた。新規登録者は11人。会員数77人（令和2年3月31日現在）。
- 会員に1回500円の謝礼金の支払いを行った。延べ1,014人。
- 研修会を2回実施した。1回目は管理栄養士を講師として招き、調理で大切な栄養や彩りについて参考となる講義と食中毒予防の観点を再確認した。参加者は24人。2回目はティップネス国領のインストラクターによる出張フィットネスを行い、立ち仕事の多い調理活動での腰痛予防やストレッチを学んだ。参加者は12人。
- 見学会では、衛生管理を含む調理活動参考の一環として、味の素食品(株)クノールカップスープ高津工場を見学視察した。参加者は27人。
- 新型コロナ対策のため令和2年3月のブロック長会を中止にし、3月27日以降の調理活動を中止した。

実績等

	項目	回数	内容
会議 関係	総会	1回	平成30年度決算・平成31年度予算等
	役員会	11回	活動内容（献立など）の決定・運営方法について
	ブロック長会	11回	材料費の支給・情報交換・懸案事項の検討
	監査会	1回	平成30年度決算監査
研修	研修会	2回	「つくること 食べること Q&A」 参加者 24人 「ティップネス国領～出張フィットネス」 参加者 12人
	見学会	1回	「味の素食品(株)クノールカップスープ高津工場」 工場見学 参加者 27人

活動	調理活動	219回	通所介護「アイビー」利用者の昼食作り 3月27日以降は新型コロナ対策のため活動中止
	大掃除	2回	6月と11月に調理室の大掃除
	細菌検査	12回	毎月1回ボランティアは細菌検体を提出
	避難訓練	1回	総会終了後ボランティア対象に避難経路の確認
広報	ボランティア募集	10回	ふくしの窓 4回 市報 5回 ちょうふFM出演 1回

分析・課題

- 第4火曜日の8ブロックと第2水曜日の10ブロックは全員が欠員となり、他ブロックからのボランティアが応援に入っている。また、欠員ブロックに重複して活動をする協力会員が複数人いる。引き続き、活動のない第5週目の活動や欠員ブロックの協力を要請していくと同時にボランティア募集の広報活動を強化していく。
- 仕事や他の活動をしているボランティアが増える中、調理活動以外の活動（総会や研修会等）への負担を感じる会員が多いものと思われる。今後の協議会運営のあり方について検討していく必要がある。
- ブロック長会については、材料費の受け渡しや情報共有の必要性を会員は認識している。
- アイビーの嚙下困難な利用者の食形態や、減塩・低カロリーが必要な利用者への理解を深めるための研修会を行っていくが多くの会員に参加してもらう工夫が必要である。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(12)	地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）（重点項目）		市総		

結果の概要

- 以下の福祉圏域において制度の狭間の課題等、様々な相談を受けるとともに、各種団体・機関と連携しながら、支え合いの仕組みづくりを目指した。

福祉圏域 (小学校区)	主な担当地域	備考
緑ヶ丘 滝坂	仙川町1～3丁目、緑ヶ丘1・2丁目、 菊野台1丁目の一部、 東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部、 西つつじヶ丘1～4丁目の一部、若葉町1丁目の一部	
若葉 調和	東つつじヶ丘3丁目の一部、 西つつじヶ丘3・4丁目の一部、入間町1～3丁目、 若葉町1丁目の一部・2・3丁目、国領町8丁目の一部、 菊野台1丁目の一部・2・3丁目	
上ノ原 柏野	佐須町1丁目の一部・2丁目・3丁目の一部・4・5丁目、 柴崎1・2丁目、菊野台1丁目の一部、 西つつじヶ丘1丁目の一部・2丁目の一部、 調布ヶ丘3丁目の一部、深大寺元町2丁目の一部、 深大寺東町2丁目の一部・3・4丁目、	令和元年10月 配置

	深大寺南町1～3丁目の一部・5丁目の一部	
北ノ台 深大寺	深大寺北町1～7丁目、佐須町1丁目の一部、 深大寺元町2丁目の一部・3～5丁目、 深大寺東町1丁目・2丁目の一部・5～8丁目、 深大寺南町1～3丁目の一部・4丁目・5丁目の一部	
第二 八雲台 国領	佐須町3丁目の一部、調布ヶ丘2丁目・3丁目の一部、 八雲台1・2丁目、国領町1～5丁目、8丁目の一部、 布田2・3丁目	
染地 杉森 布田	国領町6・7丁目、染地1～3丁目、 布田5・6丁目、多摩川6・7丁目	
第一 富士見台 多摩川	富士見町2丁目の一部、下石原1～3丁目の一部、 小島町1～3丁目、多摩川1～5丁目、布田1丁目・4丁目、 調布ヶ丘1丁目・3丁目的一部分・4丁目、深大寺元町1丁目	令和2年1月 配置
第三 石原 飛田給	飛田給1～3丁目、上石原1～3丁目、富士見町1丁目、2丁目 の一部・3～4丁目、野水1・2丁目、西町	

実績等

<共通>

- 日常の困りごとや心配ごと、社会的孤立・生活困窮・サービス未利用といった制度の狭間の課題、複合的な課題等、様々な相談について、必要な支援につなげるとともに、地域住民や様々な関係機関と連携し、課題解決に向けた働きかけを行った。
- 地域支え合い推進員及びボランティアコーディネーターと連携・情報共有を行い、制度の狭間に陥りやすいダブルケアをテーマに懇談会を開催した。
- 「高齢化」、「単身世帯の増加」、「近隣関係の希薄化」等のニーズに対し、住民が集える場の立ち上げに向けた働きかけを行い、4か所のひだまりサロンが設立された。
- 制度の狭間として「ひきこもり」に関する相談が各地域から入ってきており、前年度より当事者家族とともに検討を重ね、イベント等を実施してきた。そして当事者や家族が悩みを吐露できる場所として、4月より「ひきこもり家族懇談会」を毎月開催。参加者の中から運営を手伝う方を世話人として募り話し合いを重ね12月より「調布ひきこもり家族会やまぼうし」として正式に団体として設立された。
- 地域生活課題を複合的に抱える方等に対し、課題解決に資する支援が包括的に提供される体制等の整備を図る目的である「調布市相談支援包括化推進会議」を調布市福祉総務課とともに運営し、委員及び事務局として参加した。さらに今年度は、喫緊の課題である8050問題に焦点をあて「8050問題専門部会」が立ち上がった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で小中学校が休校となり、生活の変化により困っている世帯への支援が必要と思われた。子ども食堂ネットワーク有志を中心に、フードバンク調布とともに支援の検討を行い、「こどもフードパントリー調布」として3月に3回、希望制での食材をお渡しする取組みを支援した。また、市内の子ども食堂、地域住民より食材やお金の寄付、関係機関等の協力を得るなど様々な広がりを見せた。
- 様々な研修に参加するとともに、室田信一氏（首都大学東京准教授）によるスーパービジョン（指導・

助言等)を受けて、職員の資質向上に努めた。

○実相談件数

福祉圏域(小学校区)	個別支援	地域支援	合計
緑ヶ丘・滝坂	49	48	97
若葉・調和	60	36	96
上ノ原・柏野	21	15	36
北ノ台・深大寺	51	35	86
第二・八雲台・国領	33	37	70
染地・杉森・布田	50	43	93
第一・富士見台・多摩川	15	10	25
第三・石原・飛田給	72	37	109
合計	351	261	612

○延べ活動件数(行動区分)

福祉圏域 (小学校区)	訪問	来所	電話	メール	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	242	47	404	108	137	938
若葉・調和	281	144	335	62	179	1,001
上ノ原・柏野	193	13	141	34	78	459
北ノ台・深大寺	396	174	637	369	284	1,860
第二・八雲台・国領	390	138	545	160	348	1,581
染地・杉森・布田	356	119	417	71	369	1,332
第一・富士見台・多摩川	62	46	116	6	74	304
第三・石原・飛田給	482	86	583	138	35	1,324
合計	2,402	767	3,178	948	1,504	8,799

<滝坂・緑ヶ丘小学校地域>

○高齢化が顕著である集合住宅へのアンケート調査を大分大学、自治会と連携しながら実施した。650世帯へ配布、261世帯より回答をもらった。その結果、各世帯の平均年齢は75歳。高齢化が進んでいるだけではなく社会的孤立に陥っている方が多数いること、建て替えを機に人付き合いが減少していることなどが判明した。結果は住民にもフィードバックし、課題を住民自ら考えるきっかけづくりを行った。

<若葉・調和小学校地域>

○地域支え合い推進員との連携

ケアラー支援の観点から、育児と介護を同時進行で行っているダブルケア当事者のおしゃべり会を連携して開催した。当該地域のみならず、全市的な課題として取り組むことができた。

<上ノ原・柏野小学校地域>

○令和元年10月から配置された。地区協議会や地域の見守りネットワーク会議、ひだまりサロン等へ出向き、関係づくりに努めた。

<北ノ台・深大寺小学校地域>

○「孤食」をテーマにした話し合いの場の創出と活動の立ち上げ

第1部のP53参照

○個別支援ケースから地域で話し合う場の創出へ

地域生活課題を抱えた方について、地域住民、民生児童委員、地域包括支援センター、社協（地域福祉コーディネーター及び地域支え合い推進員）の四者が話し合う場を設け、SOSを発せない方の発見につなげるとともに、地域の中でどのように支えていけるのか検討した。

<第二・八雲台・国領小学校地域>

○保育園を活用した拠点支援

保育園から「子育てに多々不安を抱えている世帯が急増している。敷地内にある元理事長の自宅を、地域のボランティアと共同して、地域の子育ての悩みを聞いたりほっと一息つける場所にしたい」という相談があった。半年間の話し合いを重ねる中で、保育園の想いを聞き、民生児童委員や地域の子育て支援に興味のある有志を集める支援をした。月1回季節の遊びや工作を通して、交流ができる場所になっている。活動後は、園側スタッフ、地域住民共に反省や思ったことなどを述べて次につなげるよう支援した。

<染地・杉森・布田小学校地域>

○子育て世代への支援

前年度に立ち上がった「ハッピーこども食堂」の実行委員より、子育て・現役世代と繋がれる機会創出と子育て世代に向けた食育支援ができたいとの意見があった。子育て世代への料理教室を行うことを目指し、検討や準備を重ね、小学校や子ども食堂ボランティアのご協力を得て、2回の実施に至った。開催の中で、料理をする楽しさや意外と知らない生活に役立つ豆知識を学ぶ機会や保護者同士の交流の機会となった。

地域活動をしている住民と子育てや仕事等でなかなか地域で活動する機会が少ない世代が交流し、様々な世代が顔の見える地域になるよう支援した。

<第一・富士見台・多摩川小学校地域>

○令和2年1月から配置された。地区協議会やひだまりサロン、自治会の集まり等へ出向き、関係づくりに努めた。

<第三・石原・飛田給小学校地域>

○居場所検討会

空き家・空き店舗を活用して、子育て中の親子や地域生活課題を抱えた若者、孤立しがちな高齢者等が交流できる「まちの保健室」の立ち上げに向けて検討会を開催した。また、空き家対策を進めている住宅課と共立女子大の建築学科の学生、高齢者の活躍の場の仕組み作りを進めている高齢者支援室と連携し、富士見町のまち歩きや他地域の取り組みを学ぶ機会として2か所の活動の視察に行き、居場所活動のイメージ作りを行った。

○地域生活課題への取り組み

昨年度に続き、子どもの支援に関わりのある地域住民や関係機関などで、複合的な課題を抱え支援が必要な世帯に対しての関わり方として学校での九九暗唱を開催した。また、今年度は英語の授業も始

まったため、新たな取り組みとしてローマ字の練習を手伝うABC教室を開催した。

分析・課題

- これまでに立ち上げ支援を行った子ども食堂やひだまりサロンがモデルとなり、各地域の特色に合った新たな活動が広がってきている。
- 相談の中には制度の狭間や複合的な地域生活課題が多く含まれ、課題解決につながらない相談もある。そのような相談に対応するために、調布市相談支援包括化推進会議及び専門職ネットワーク会議との連携を図ることが必要である。また、地域住民が課題解決に向けて話し合える場づくりが求められており、自宅から歩いていける距離に、誰もが気軽に立ち寄れ、地域活動の拠点となる場を増やしていくことが望ましい。
- 社協内の各部署との連携をより緊密に図り、法人全体で地域福祉推進に取り組んでいく必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(13)	ちょうふ地域福祉フォーラム				

結果の概要

- 地域支え合い推進員と連携・協働し、「ダブルケア」をテーマに企画し、準備をすすめたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催は中止とした。

実績等

タイトル	～ダブルケアを知っていますか？～
日時	令和2年3月8日（日）13：30～15：30
会場	総合福祉センター201～203 会議室
内容	(1) 基調講演 講師 植木美子氏（一般社団法人ダブルケアサポート理事） (2) グループワーク 「ダブルケアラーが孤立しないためにできることを考える」 (3) 希望者との茶話会
参加者数	新型コロナウイルス感染症のため、中止

分析・課題

- 地域支え合い推進員が支援する、「介護をしながら育児も同時並行する当事者」が、情報交換や気持ちの共感を目的に集まる、『ダブルケアおしゃべりの会』の立ち上げの支援と連動し、今後の当事者会への協力者や当事者の掘り起こし、普及を目的に企画した。
- 企画を進める中、講師の植木氏の体験談をもとに介護は急に起こること、「子育て」、「介護」どちらのコミュニティからも孤立する可能性があること、調布市内でも「ダブルケア」の実態が増えていること、社会問題として取り組む必要性を共有した。
- 今回は開催には至らなかったが、市内全域の小中学校、幼稚園、保育園すべてにチラシを配布、掲示したことで、当事者に向けた取組のPRを行う事ができた。